

第6学年 図画工作科学学習指導案

1 題材名

「墨から感じる形や色」 (絵に表す)

2 指導観

(1) こんな児童だから

本学級の児童は、一学期に「どんな動きをするのかな」の学習で、見たことがあるものやゲームなど身近にある具体的なものを主題とし、クランクの動きを生かしながら工夫して表す経験をしている。しかし、自分の気持ちを工夫して表すなど抽象的な表現をする経験はしていない。

そこで、「墨から感じる形や色」の学習で、墨の形や色から感じる様々な表情から表現主題を連想させ、抽象的なものを表現する力を身に付けさせたい。

(2) こんな題材で

本題材は、使う用具のできる多様な形や、墨と水のできる色の濃淡から感じる様々な表情から表現主題を連想させ、抽象的なものを表現する力を身に付けることをねらいとしている。

墨は、水の加減により様々な色を感じさせ、筆や用具の動かし方によって、かすれたり、にじんだりといった様々な表情を見せる。このことから墨の表現のよさや美しさを味わいながら創造的な学習を深めることができると考えられる。

本題材は表現の(2)ウと特に関連が深く、児童が自分の表現主題に合った墨の濃淡、使う用具を選択し、それらを組み合わせることで、一人一人が自らの表現をつくりだすことができる点で意義深い題材である。

(3) このように指導して

- 発想・構想の段階においては、体験活動を設定することで、墨に十分に親しみをもたせるとともに、墨の様々な表情を知り、発想を広げさせる。
- 表現の段階においては、その日の作品が表現主題をどれほど表すことができたかを振り返らせ、視覚的に分かりやすくする。また、表現主題について振り返りをするすることで、表し方の組み合わせと墨の濃淡について、うまく表現できたところともう少し工夫が必要なところを児童自身に見付けさせる。
- 鑑賞の段階においては、一つ一つの作品の表現のよさや違いに気付かせるために、作品の表し方の組み合わせと墨の濃淡を視点として与える。

3 題材目標

- 墨と水、用具のできる形や色に興味をもち、墨の形や色から感じる様々な表情を表現することに取り組もうとしている。(造形への関心・意欲・態度)
- 墨の形や色から感じる様々な表情を表現するために、墨の色の濃淡や用具のできる多様な形を試しながら、表し方を考えている。(発想や構想の能力)
- 用具を活用しながら表し方を工夫している。(創造的な技能)
- 自分や友達の作品を見合ったり、話し合ったりして、墨の美しさや表し方のよさ、面白さをとらえている。(鑑賞の能力)

4 学習計画（全4時間）

過程 配時	学習活動	手だて（※） ふりかえり活動に関する手だて（◆）	児童の姿
発想 構想 ①	<p>1 いろいろな表し方を知り、試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な表し方（かくもの・かかれるもの・墨）を知る。 ○ いろいろな表し方を試す。 ○ 試した表し方のよさについて振り返る。 	<p>※ 自然な交流が生まれるように、グループ構成や座席の配置を工夫する。</p> <p>※ 墨に親しみを感じることができるよう体験活動の時間を十分にとる。</p> <p>※ 試す活動をするときに次の視点を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線を中心にした試し ・ぼかしを中心にした試し ・道具を使った試し ・自由な試し <p>◆ 本時で試した表し方のよさを振り返ることができるよう、図工ノートに記入させる。</p>	<p>◎ 墨の濃淡の感じや用具の扱い方を考えながら、いろいろな表し方を試している。</p> <p>線を中心にした試しがきだから筆を使おうかな。</p>  <p>ぼかしを中心にした試しがきだから先に水をかけてそこに墨をたらそうかな。</p>  <p>道具を使った試しだからスポンジや色紙を使おう。</p>  <p>自由な試しだから線とぼかしとスポンジを使おう。</p> 
表現 ② 本時 2/4	<p>2 2つの試しがきを組み合わせ、新しい作品を表現する。</p> <p>(1) 試しがきの中からお気に入り1つを選ぶ。</p> <p>(2) 友達の余っている試しがきの中からお気に入り1つを選ぶ。</p> <p>(3) 2つの試しがきを組み合わせ、新しい作品をつくる。</p> <p>3 前時の作品と組み合わせたり、試しがきから自分の作品と友達の作品を組み合わせたりして、新しい作品を表現する。</p>	<p>※ 活動がしやすい場づくりを行う。</p> <p>※ 自然な交流が生まれるようにグループ構成や座席の配置を工夫する。</p> <p>※ 机間指導をしながら、工夫しているところを賞賛したり、つまずきに応じて助言したりする。</p> <p>◆ 表現主題について振り返り、視覚的に分かりやすくすることで、表し方の組み合わせと墨の濃淡について、本時での工夫と次時での工夫を児童自身に見付けさせる。</p>	<p>◎ 表し方の組み合わせと墨の濃淡を工夫して表現をしている。</p> <p>この試しがきを上にくっつけると線がつながるな。なんだぐるぐる回っているみたいだ。</p>  <p>かすれた線を増やしていけばもっとぐるぐるした感じになるな。</p> <p>◎ 本時で行った工夫と次時で行いたい工夫を見付けている。</p> <p>今日は70%表現できたかな。私の工夫は、ぐるぐるした感じを表現するために線をかすれさせたところだ。もっとぐるぐるした感じを表すために、次は薄い墨を使いたい。</p> 
鑑賞 ①	<p>4 自分や友達の作品を鑑賞し、表現の違いやよさについて話し合う。</p>	<p>※ 友達の作品を、表し方の組み合わせと墨の濃淡という視点から鑑賞し、題名を考えさせる。</p> <p>◆ 友達との交流を基に、自分の作品の表し方の組み合わせ、墨の濃淡のよさを図工ノートに書かせる。</p>	<p>◎ 墨を使った表現のよさや美しさ、楽しさを感じ取っている。</p> <p>Gさんの作品は線ぐるぐる回っているようにかいてあるな。まわりに小さなじんだ薄い点がいっぱいあって吸い込まれているみたいだ。題名は「全てを吸い込むブラックホール」かな。</p>  <p>◎ 友達との交流を基に、自分の作品のよさを考えている。</p> <p>わたしの題名は「巨大な渦」だったけど、「全てを吸い込むブラックホール」ってコメントされている。確かに線がぐるぐるになっているところからそういう見方もできるな。</p> 

5 本時の指導について

(1) 本時の目標

- 墨の形や色から感じる様々な表情を表現するために、墨の色の濃淡や用具でできる多様な形を試しながら、表し方を考えている。
(発想や構想の能力)

(2) 本時指導の重点

本時は、表現主題を基に表し方の組み合わせや墨の濃淡などを考えながら表現し、表現主題をもとに表すことができたかを振り返り、本時の工夫や次時の工夫を見付けることに重点を置いている。

そのために、以下のことを行う。

- 導入時に、前時を振り返り、感じた表現のよさを意識させる。
- 終末時に、表現主題を基に表すことができたかを振り返らせ、表し方の組み合わせや墨の濃淡について、表現主題を表すことができた工夫ともっと表すための工夫を見付けさせる。

(3) 本時の展開

学習活動	手だて (※) ふりかえり活動に関する手だて (◆)	子どもの姿
<p>1 前時の学習を振り返り、学習のめあてをもつ。</p> <p>(1) 前時の学習を振り返る。</p> <p>(2) 試しがきの中からお気に入りのものを1つ選ぶ。</p> <p>(3) 友達の余っている試しがきの中からお気に入りのものを1つ選ぶ。</p> <p>(4) めあてを知る</p> <p>— めあて —</p> <p>2つの試しがきを組み合わせ、新しい作品をつくらう。</p>	<p>◆ 児童が前時で感じた表現のよさを意識できるように、図工ノートで前時の活動を振り返らせる。</p>	<p>◎ 前時の学習を思い出している。</p> <p> 線やぼかし、道具を使っているいろいろな試しがきをしたな。</p> <p>◎ 自分の気に入った作品を選んでみる。</p> <p> この試しがきは線がかすれていてかっこいいからこれを選ぼう。</p> <p>Gさんのこの試しがきはなんだか僕がやっていない表現があるな。</p>
<p>2 2つの試しがきを組み合わせで新しいものをつくる。</p> <p>(1) 2つの試しがきを組み合わせる。</p> <p>(2) 組み合わせのよさをより表すために、表現を付け加える。</p> <p>(3) 出来上がった作品に題名を付ける。</p> <p>3 活動を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <p>(1) 互いの作品を鑑賞する。</p> <p>(2) 自分の表現主題について振り返り、次時の活動の見通しをもつ。</p>	<p>※ 机間指導しながら必要に応じて助言をする</p> <p>※ 自然な交流を生むために、グループ構成や座席の配置を工夫する</p> <p>※ 表し方の組み合わせと墨の濃淡を視点に鑑賞させる。</p> <p>◆ 表現主題をどれほど表現できたか、図工ノートに視覚的に分かりやすく記入する。</p> <p>◆ 表し方の組み合わせと墨の濃淡について、表現主題を表すことができた工夫ともっと表すための工夫を見付けさせる。</p>	<p>◎ 表し方の組み合わせと墨の濃淡を工夫して表現をしている。</p> <p> この試しがきを上にくっつけると線がつながるな。なんだかぐるぐる回っているみたいだ。</p> <p>かすれた線を増やしていけばもっとぐるぐるになるな。</p> <p>なんだか巨大なぐるぐるができたぞ。題名は「巨大な渦」にしよう。</p> <p>◎ 友達の表現のよさを見付け、参考にしている。</p> <p>◎ 次時につながるふりかえり活動をしている。</p> <p> 今日は70%表現できたかな。私の工夫は、ぐるぐるした感じを表現するために線をかすれさせたところだ。もっとぐるぐるした感じを表すために、次の時間は薄い墨を使いたい。</p>